



No.39

2023.06

〒732-0067 広島市東区牛田旭 2-14-1
事務局長 / 城山泰彦 TEL 082-224-6006

〒732-0023 広島市東区中山東 1-4-29
支部長 / 木本良助 TEL 090-2802-6417

第二回 職場
アトリエ訪問

横田良作
さん

昭和35年
日本画

増ページ

議題・決議結果のお知らせ
2022年度分会計報告

近況ひとこと

校友会、校友会員の活動記録・予定



第二回 職場

アトリエ訪問

校友の活動を紹介するコーナーです。

横田良作さん

昭和35年 日本画



1937年 広島市に生まれる
1961年 武蔵野美術大学日本画科卒業
1985年 広島県美展無鑑査、審査員
1994年 広島文化賞フェステ展出品
1999年 広島70人展出品
2001年 八千代の丘美術館（第1期、入館）
2002年 広島絵画110人展出品（福屋）
2007年 広島三越にて個展
2010年 広島三越にて個展
日本美術家連盟会員
広島県日本画協会常任理事
日本画協会主宰
一般社団法人アートプロッサム理事
ひろしまインターネット美術館名誉顧問
アトリエ 広島市南区旭 1-15-29
TEL：082-251-5913



本日は岡崎と積山の二名で、日本画家横田良作先生のアトリエにお邪魔しています。

積山先生のアトリエは本当にきれいで整理されていますね。私のアトリエなんか、獣道で足でこすりやがってガサガサつて物をよけて歩くって感じでもまるで違つ。(笑)

岡崎 洋画を描く人のアトリエをイメージして伺ったので、こんなにきちんと整理されてるとは思いませんでした。

そうそう。日本画は埃を嫌うからいつも清潔にしておかないと駄目なんです。油絵を描く人はそこまで気にしませんよね。天然の石を砕いてつくる絵の具だから体に悪い影響を与えません。だから日本画家は長生きするんですよ。(笑)

—横田先生はどんな少年でしたか。

まだ戦前でしたから、大きくなったら兵隊さんになるのが当たり前の時代で、七つボタンの子科練とか憧れてました。生まれたのは段原中町。父



仕事のお父さん

は絵描きで、いつも家にいるんですよ。肖像画専門で、外交員が七人くらいいますね、肖像画の注文にあわせて一緒に写真も持ってくるんですよ。外交員が直接写真を撮ってくることもありました。

—実家の仏間に肖像額が並んでかかっていますが、ああいった

絵を描かれてたんですね。子どもの頃は本当の写真だと思っていました。

そう、その写真みたいな肖像画を描く仕事で、外交員から受け取った写真を写真館に行つて引き伸ばしてもらつて、幻灯機で大映しにして描いてました。肖像画だから本人に似ていないと駄目だし、嘘がつけません。

—本当にそうですよね。それに素の写真のままじゃ陰影も弱いから、光の具合やら描き起こすことで写真以上にリアルな肖像になりますね。

親父は日中家で絵を描いていました。ともだちの家に行くとお父さんは仕事でいない

よつて言うんです。子どもの頃は、どこの父親も家にいるもんだと思つていました。(笑)

—もしかすると、うちに飾つてある絵も先生のお父さんの仕事かも知れませんか。

そうですね、親父の描いた絵は二〇〇枚を超えてると思います。本当にたくさん描いてましたね。

それと、おふくろの系統で山口の田布施という所に住んでいたおじさんも画家でした。それは肖像じゃなくて岩絵の具を使って描く日本画。疎開した時に近くで見せてもらつて、こんな絵の描き方もあるんだつてすごく印象に残りました。



6年生頃(後列中央の背の高い少年)

—話は変わりますが、戦前の生まれで、爆心地からさほど離れていない段原地区で少年時代を過ごしたという事は、もしかすると…原爆を体験されたのではないですか？

国民学校二年生(小学校二年)の夏休み、山口のおじさんのところから家に戻って数日後の天気の良い朝でした。部屋にこもって勉強するのが嫌で、母にみつからないようにこっそり家を抜け出して、近くの防火用のため池のそばでトンボを捕まえていたんです。

少し疲れて陰で休んでいた時に突然、大きなたまごの黄身のようなものが臉に映つたんです。気がついた時は池の向こう側まで飛ばされて、頭にガラス片が刺さって血まみ

れで倒れていました。大けがでしたが、陰で休んでいたのでも、直撃から逃れる事ができました。

家に帰ると勉強してた部屋の壁が崩れていて、母が瓦礫をどかしながら私を必死でさがしていました。そこに血まみれの僕が帰ってきて、急いで手当をしなきゃという事で弟と緒に乳母車に乗せられて臨時の救護所で簡単な処置を受けました。でも、その後で、母と弟がへたつてしまつて、逆に僕が二人を介抱するような感じになったんです。

ふらふら歩いてる途中で救護のトラックにひっぱりあげられたあたりまでは覚えてるんですけど、その後気を失つて…ほんとにすごい体験ですよ。今でもその時の傷が後頭部に残っています。ほら、このあたり。

—(軽く触れる)ほんと！大きく凹んでますね。明るくて朗らかな印象がある横田先生ですが、すごい体験をされたんですね。

本当にすごい時代を生きてきたなんて、自分でも思います。

—武蔵美の日本画を専攻されたきっかけは何ですか。



美術部の友人達と



高校時代 作品の前で

日本画を選んだのは親父の影響が大きいですね。父親もおじさんも日本画家で、油絵は最初から選択肢にありませんでした。そんな環境だから、絵の世界に進みたいって言うても誰も反対しませんでした。

二浪して藝大の最終選考までは行つたんですけど結局駄目でした。武蔵美の他に多摩美と言う選択肢もありました

が、同級生が多摩美に行くつて言つてたから、それなら俺は武蔵美だと決めました。



あ、若き日。

—学生生活や印象に残つている事などお聞かせください。

高円寺の予備校に通つた浪人時代を含め、いろんな所に下宿していました。池ノ上、荻窪、吉祥寺、下北沢、小平。上京して最初

にお世話になつたのは、親父の弟の川崎のおじさんの家。おじさんは大洋漁業(現・マルハ)で遠洋漁業に出てるから普段は家にいなくて、部屋が空いてるからおいでよって事になって。

向かいが大洋ホエールズの宿舎で、試合に勝つた日なんかは選手が上半身肌になってみんなワイワイ騒いでるのが見えるし、すごく楽しくて気に入りました。

お風呂が共同で、男女に別れてるんですけど、ある日お風呂に入つてたら、壁をはさんだ女湯から何やら聞こえてくるんです。どうやら自分の事を噂してるらしい。横田さんの奥さんつて男前の若い学生さんと二人っきりで何やつてるんだらうつて。(笑)

おばさんには言いませんでしたけど、早くここを出なくちゃと思つて、親父によそに下宿させてくれたつて電話しました。親戚の家で金もかからないし何の遠慮があるんだつて言つてましたけど、何とか説得して引越つし費用を送ってもらいました。

—学生生活はどうでしたか。

武蔵美が小平に移つたのは卒業してからで、当時は吉祥寺に校舎がありました。校風は自由奔放な感じで、それで先生方もいま考えたら超一流の先生でした。川崎小虎、奥村土牛、毛利武彦さん、みんないい先生でした。武蔵美の先生方を何かに例えるなら野武士ですね。



高校時代は陸上部でも活躍
先生からスカウトされるほどの俊足

一番好きだったのは川崎小虎先生。なんでだと思いますか。「みなさんこれで甘いものでも食べてください」って、紐のついた財布から千円札を取り出してくれるんです。今なら二万円くらいですね。先生が来るたびにくれるんですよ。だから先生の授業は出席率が良かった。(笑)

一番影響を受けたのは毛利武彦さんですね。若い先生でしたけど。著名な先生方が並んだ中で順番に講評を受けるんですけど、当時は絵の具をそんなに買えなくて。しかたないから手持ちの絵の具で道を真っ赤に描いて持っていたんです。他の先生はしかめっ面でしたけど毛利さんは、「これは絵なんだから赤い道があってもいいと思うよ」、って言ってくれたんです。自分が認められたような気がしてすごく嬉しかった。

—横田先生の作風に毛利先生の影響はありますか。

褒めてもらったからってわけじゃないけど、すごく影響を受けました。

どんな作風の絵だったって、下手な絵だったって、上手に描こうとせ

ずに自分を出せばいいって言うのかな、そういう事に目覚めたと言うか教わった気がします。だから、わざわざ森に写生に行かなくてもアパートから見える風景でもいいんだと。先生からは本当に大切な事を教えてもらいました。

—学生時代の思い出に残る出来事などありますか。

武蔵美祭りが一番楽しかったですね。吉祥寺の校舎に広い部屋があつて、そこがダンス会場になるんです。女子美とか多摩美、御茶ノ水学園の女の子がいろいろやって来ました。埃まみれの

暗がりの部屋で。ダンスしながら女の子を誘って。まあ、当時は本当に良くモテました。今は全然だめですけど。(笑)

日本画科は模擬店うどん屋をやるんですけど、これが本当に良く売れて随分儲かりました。儲けたお金で友達と街に繰り出しましたよ。楽しい思い出です。

—アルバイトなどはされてましたか。高度成長期の東京だからそんなに苦労はなかったんじゃないですか。

バイトは学校の紹介でいろいろやりました。バーテンダーと

かいろいろ経験しておもしろかった。仕送りは少なかつたですよ。親父の肖像画も徐々に写真に切り替わってきた頃です。今月はこれで勘弁してくれました。

大学の掲示板上に「日本画、横田良作、授業料未納に付



き事務所まで」って掲示された事があつて。あれには参りました。(笑)

—卒業後はどうされたんですか。

当時は絵で採用する企業なんてありませんでした。デザイン科ならそう言う仕事もあるんでしようけど、専攻が純粹な日本画でしたから。教員養成科もありましたが、学校の先生なんかなるもんかって気持ちが強かったです。

—それじゃ、最初から何が何でも画家になるんだって気持ちで絵を描かれていたんですか。

いや、それほど気負ってたわけでもないですけどね。卒業後は絵を描きながら店舗改装の会社で半分アルバイトのような仕事もしていました。運転ができましたから。世田谷は特に道が難しいんですけど、僕

は詳しくなかったからかなり重宝されました。

—奥様と出会いのきっかけは何ですか。よろしければ結婚に至った経緯などお聞かせいただけますか。

二八歳の時にお見合い結婚しました。ある日の事、東京の下宿に家から写真が届いたんです。会社のロビーにきれいな案内係の女性が並んだ写真で、母がその中のひとりに丸印をつけて、すごく可愛かったんです。その日のうちに夜行に乗って広島まで飛んで帰りました。(笑)

でも、電話も何の連絡も無しで突然行つたから彼女は家にいませんでした。それで、彼女が帰宅するまで居間で待たせてもらいました。帰ってきた玄関先の彼女をひと目見た瞬間に、ああ、この人だ、この人をお嫁さんしようって思ったんです。その場ですぐに、うち(横田)の方はOKですって事になりました。

—お母さんはどうやってそんな素敵なお嫁さん候補をみつけたんですか。

親父が町内会の会長をやつて、近くにできた広銀の本店



卒業制作の前で

のお披露目に招待されたんです。その日は親父の代わりに母が近所の人達と見学に行っただんです。

案内係の中にひときわ可愛いお嬢さんがいて、母はこの人を良作のお嫁さんしようって決めたらしいんです。上司の方にお願いで住所を教えてもらったそうです。後日仲人をしてくださる方と一緒に、お見合いのお願いに行っただんです。その時持参したのが、アパートの前で撮った和服の寝間着みたいな格好のひどい写真で、良くあんな写真でお見合いしてもらえたなと思います。(笑)

―返事はすぐにももらえませんでしたか。

それが、なかなか返事が来ないんですよ。妻はまだ19歳で仕事を楽しくなり始めた頃だったので、結婚するのは少し早すぎると思ったそうです。それと、当時のことですから



じゃないかな(笑)

奥様「毎日書いたなんて言い過ぎですよ。せいぜいこの程度…」(手を広げながら)

その間に二回くらいはデートして、題名は思い出せませんが、映画にも行きました。緊張して手もつなげませんでしたけど。(笑)「東京はいいところだから、一度遊びにおいでよ」って言ったと思います。彼女のお母さんは娘を広島から出さないって言ってたから、

「僕はそのうちこっちに戻ってくるつもりです」って答えてたんですけど。正直、広島に帰るつもりは全然なかったですね。(笑)翌年妻が二十歳になって、結婚しました。

―広島に帰られてからはどうされてたんですか。

―先生は三越でずっと個展をされてましたよね。

42歳の時に広島に帰って来て、日本画の教室をはじめました。一番多いときは百人くらい生徒がいました。福山にも教室があって、新幹線が開通する前は車で往復した時期もあります。広島の仲間達にも助けてもらいました。妻も広島に復職して定年まで勤め上



げてくれたんですよ。妻とみんなのおかげで画業に没頭する事ができました。

三越では9回以上個展をやったね。(近くの絵を指差して)こんな大きな絵はスポンサーや外交員がいないと、とても売れませんから。三越ってバックボーンがあるから売れるんですよ。

―先生は団体には所属されてませんか。何か理由はありますか。

僕は二匹狼だからどこにも所属していません。団体に所属すると、その団体のために時間とか活動とかいろいろ縛られますから。代わりに団体から自分の作品を応援して貰えるメリットもあるから五分五分なんですけど。まあ、一般的には団体に所属した方が良いことの方が多いいと思います。

学生の時に助手達が有名な先生に紹介してもらったのに大金を要求されたとか、払ったのに入選できなかったとかぼやいているのを良く聞いていました。僕はそんなの嫌ですし、親父も二匹狼でしたから。好きな時に好きな絵を描くのが一番です。とにかく縛られるのが嫌なんです。

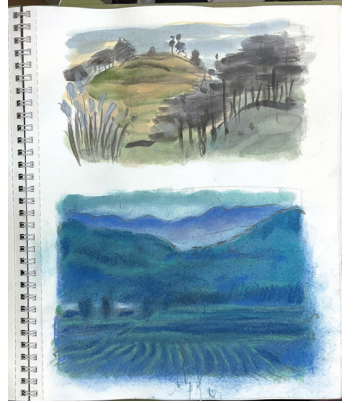
―これからの目標とかテーマなどあればお聞きしたいのですが。



これから先、大好きなカーブの観戦とスケッチ旅行で毎日を楽しんで過ごすことです。八〇過ぎてから少し体調を崩した事があるんです。今は元気に過ごしていますが、正直、もう駄目かも知れないと思ってた事もありました。まわりには八五歳まで頑張るって言うてたんですが、八五歳になつたら、今度は目標を今は目標を二〇歳に変えました。

—今の先生なら十分達成できそうですね。

明日から家族で石川県の方に旅行に行くんですが、妻が全部手配してくれたんですよ。お金の事とか任せっきりで何も考えた事がないんです。今回も家族旅行を考えてくれたし、本当に感謝しています。



旅行の時はいつもスケッチブックを持ち歩いて、クロッキーしています。観光旅行だけどスケッチ旅行ですね。車を運転しなくてもツアー会社がいろいろな所に連れていってくれますから。それでなぐり書きのクロッキーと、同行サポートしてくれる妻が撮った写真を参考に、帰ってから絵にするんです。

—前から先生にお伺いしたかったんですけど、先生の絵って山の絵って言うか風景画をテーマにされていますよね。風景しか描かれない理由のようなものはありますか。

私は風景しか描かない風景画家です。花々なんか描いてしまうとどうしても細かいところまで似せようと描き込んでしまつて、そんなことやってたら植物図鑑になつてしまいますから。だから山ばかり描いています。

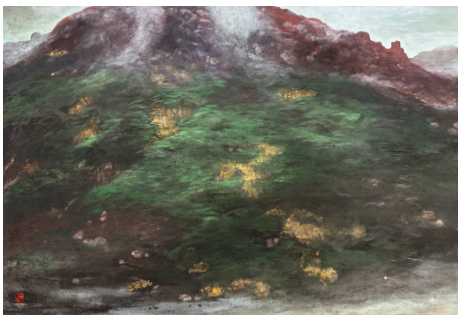
今も教室を持つて二〇人くらいの生徒さんがいますけど、

うまく描こうとせず好きなように描きなさいと言っていきます。絵は真似から入るのが自然ですから、どうしても似たような自分じゃない絵を描いてしまふんです。上手・下手は二の次なのに。

でも、生徒さんにはそう教えてるのに上手に描こうとする自分がいます。本当に駄目ですね。(笑)



月韻



乗鞍(平成19年)



制作中の作品



取材



岡崎隆一
1998年通短デグラ
グラフィックデザイナー
ゲームメーカー
コンパイルを経て福山市の
企業でホームページ、動画、
3DCG制作に携わる。



積山ミサ
2000年通美
画家・版画家
個展グループ展多数
広島版画工房主催・運営、
4版種全ての技法で制作
を行う。

校友会 広島支部 2022 年度分会計報告

22 年 4 月 1 日～23 年 3 月 31 日 (単位 / 円)

収入			支出		
項目	決算額	適要	項目	決算額	適要
前年度繰越金	¥404,967		支部展 小品展費	¥0	
本部助成			支部催事費	¥5,780	
基本助成金	¥61,500	2021 年 11 月送金分	会議費	¥420	
新人賞副賞	¥0		広報物印刷費	¥14,682	
支部展企画後援費	¥0		Web・ブログ 関連費		
その他	¥0	支部展祝金 サロン風月 A&D 等	通信費	¥11,040	
支部会費	¥49,000		慶弔・交際費	¥1,650	
支部展参加費	¥0				
行事参加費	¥0				
寄付金	¥4,360				
利子収入	¥3				
収入合計	¥519,830		支出合計	¥33,572	
			次年度繰越金	¥486,258	

2023 年度予算案

22 年 4 月 1 日～23 年 3 月 31 日 (単位 / 円)

収入			支出		
項目	予算額	適要	項目	予算額	適要
前年度繰越金	¥486,258		支部展 小品展費	¥0	
本部助成			支部催事費	¥120,000	
基本助成金	¥60,000			¥5,000	
新人賞副賞			会議費	¥1,000	
支部展企画後援費			広報物印刷費	¥15,000	
その他		支部展祝金 サロン風月 A&D 等	Web・ブログ 関連費	¥10,000	
支部会費	¥50,000		通信費	¥11,000	
支部展参加費			慶弔・交際費	¥2,000	
行事参加費	¥60,000				
寄付金	¥4,000				
利子収入					
収入予算合計	¥660,258		支出予算合計	¥164,000	
			次年度繰越金(予定)	¥496,258	

議題 決議結果のお知らせ

昨年度に続き、本年度の校友会広島支部総会はコロナ禍のため会場に集まっていた総会決議が困難となりましたので、校友会広島支部のみなさまに送付した決議案の返信結果をもって決議とさせていただきます。

2022 年度総会議題

- 第 1 号議題 決算の承認
 第 2 号議題 MUSABI 展の開催の判断
 第 3 号議題 来年度事業計画の承認
 第 4 号議題 ホームページ制作費用計上
 総返信数 26 名 (内メール 11 名)

第 1 号議題	承認 26
第 2 号議題	中止 19・開催 6・棄権 1
第 3 号議題	承認 26
第 4 号議題	承認 25 反対 1 件

結果、決算の承認と来年度事業計画については賛多数にて承認。MUSABI 展は不開催。ホームページ作成については承認となりました。

ホームページ制作の費用計上を承認いただきましたので、小規模なホームページサーバーを契約しました。

個人向けサーバーを利用した小さなサイトになりますが、会報のバックナンバーや校友のみなさんの活動状況・行事予定などを、随時お知らせ応援できる有用なサイトになればと思います。

年内の運用開始に向け、現在作業中です。

近況ひとこと

塩飽一昭 昭和 36 年 (1961) 校本洋

拝啓 小生元気でおります。(あと少々ですが?) MUSABI 展の開催を切望します。

今井 諭 昭和 40 年 (1965) 学産芸

コロナも治まってきているので早く活動できる事を願っています。校友会の活動が盛んになるようよろしく願います。

西岡康雄 昭和 50 年 (1975) 短通美油

昨年に続き今年の冬も寒く、気象庁から何十年に一度と言う寒波がやってくると発表された。案の定寒かった。温かい季節が待ち遠しい今日このごろである。

平井俊雄 昭和 51 年 (1976) 専商デ

令和 5 年度も中学生を相手に非常勤講師を続ける予定です。最近の教育現場も進歩が速くついていくのが大変ですが、若い世代に教えてもらいながら頑張っています。弓道も上を目指して修練に励んでいます。

梶井 加代子 平成 2 年 (1990) 通美

すごく忙しい年になりそうです。11 月広島で版画グループ展、12 月東京銀座「志門」で個展、翌年 1 月東京銀座「向日葵」でグループ展。さらにこの年で中川専門学校の高等部での美術の講師をする事になりました。久しぶりの講師のため体力知力とも心配です。

総会決議案内にご返信いただいたメッセージです。編集作業にあたり語句の修正を行っています。誤字や意味の取違いなどありましたらお許しください。

岡崎隆一 平成 10 年 (1998) 短通デグラ

正月明けに広島支部の役員会に出席してきました。第 8 波が確実視される中での会議でしたので、前向きな話ができる状況にはありませんでした。今回、賛成多数で校友会総会、ムサビ展開催の見合わせが決まりましたが、みなさんが開催を切に望まれているのが本当に良くわかります。これから先、同様の事態が発生しても校友の皆さんを持続的・発展的に支援できるような組織になれば良いと思います。

藤村朋弘 昭和 36 年 (1961) 本商デ

ここ佐伯区山奥は 1 月末時点で最低気温マイナス 5℃。避寒のため 2 月 1 日から 2 月 28 日まで沖繩宮古島、民家宿、イントウパルトウスーラに滞在しました。少し年期の入った建物ですが自分で料理を作り散歩をし、腕立てなどのトレーニングをして生活では快適な日々を送りましたが、観光となると晴れた日は 1 週間、あとは雨曇りの日が多く特に風は強く引き飛ばされそうな場所もありました。それでも最低気温は 16℃、避寒の目的を達することが出来良かったと思っています。

積山ミサ 平成 12 年 (2000) 通美

今年も、広島県の審議会の「旧広島陸軍被覆肢廠の活用の方向性に係る懇談会」にて芸術・文化コア委員として会議に参加し議論を進めてきました。

広島県では今のところ南区にある被覆肢廠の建物のハード面の整備をしているところですが、これか

らは、一歩進めてソフト面での現実可能な事業の推進を考えて行く段取りです。

・G7 サミットが広島で行われますので、盛り上げるための企画協力としてアートで参加予定です。そのため、5 月～6 月とアートの企画と展示が続きます。実際には、会議をすることが非常に多くなりますがアートプロデューサーとしての仕事の幅も広がっているところです。

松田美佳 平成 13 年 (2001) 通デグラ

毎年、ご報告等頂きありがとうございます。私自身、制作などを何も行ってない最近ですが、美術には触れていたいと言う気持ちから美術館を年に数回訪れて作品を鑑賞し癒やされています。皆様のご活躍をかげながら応援したいと思います。

塩山要子 昭和 38 年 (1963) 校本洋

地球温暖化、自然破壊など様々な問題があるものの、コロナによるここ数年の影響は計り知れないものがあると思います。対面でのおしゃべりや会議もできず、ZOOM などの全く今まで縁のなかったものに取り組みハメとなになり自分の居場所を考えられています。80 代をどう生きるかが目下の課題!! みんなで集えると良いと思います。

校友会、校友会員の活動記録・予定 (順不同)

■ 萩井 加代子 平成 2 年 (1990) 通美

『第 7 回 Art Exhibition 瀬戸内大賞』「奨励賞」
2022 年 3 月 3 日 (木) ~ 6 日 (日)
(呉市立美術館)

東京銀座『向日葵』グループ展

2022 年 5 月

東京銀座『向日葵』個展

2022 年 5 月

『版画グループ展』

2023 年 11 月 予定 広島
東京銀座『志門』個展

2023 年 12 月

東京銀座『向日葵』グループ展 2024 年 1 月

■ 積山 ミサ 平成 12 年 (2000) 通美

『広島と金沢の文化をつなぐ二人展』

2022 年 5 月 10 日 (火) ~ 22 日 (日)

(石川国際交流サロン)

『第 64 回日本版画会展』

2022 年 11 月 18 日 (金) ~ 24 日 (木)

(東京都美術館)

『第 10 回アートブロッサム展』

2023 年 7 月 20 日 (木) ~ 26 日 (水)

10:30 ~ 19:30 (最終日 17 時閉場)

福屋広島駅前店 6 階ギャラリークリエイト

■ 木本 良助 平成 12 年 (2000) 学油

『第 75 回二紀展』

2022 年 10 月 19 日 (水) ~ 31 日 (月)

(国立新美術館)

『二紀展第 50 回広島巡回展』

2023 年 1 月 24 日 (火) ~ 29 日 (日)

(広島県立美術館)

『二紀会広島支部有志による小品展 vol.5』

2023 年 1 月 10 日 (火) ~ 15 日 (日) (ギャラリー 718)

■ 島崎 陽子 平成 19 年 (2007) 造油

『島崎陽子作品展—生きる力に魅せられて—』

2022 年 11 月 22 日 (火) ~ 26 日 (日)

(京都ギャラリー Create 洛)

■ 岡崎 隆一 平成 10 年 (1998) 短通 デグラ

『JAGDA 広島 ヒロシマ平和ポスター展』

2022 年 7 月 20 日 (水) ~ 25 日 (月)

(ウェンディひと・まちプラザ)

『第 106 回 二科展』 デザイン部

2022 年 9 月 7 日 (水) ~ 19 日 (月)

(国立新美術館)

『第 66 回 二科展 広島巡回展』

2023 年 2 月 7 日 (月) ~ 12 日 (日)

(広島県立美術館)

『渡邊純子 with 岡崎隆一 作品展 (仮題)』

2023 年 11 月 予定

■ 鎌田 七洋 昭和 40 年 (1965) 校美教養成

現展 絵画の部 (平面) 会員

『第 78 回 現展』 (現代美術家協会)

2022 年 6 月 1 日 (水) ~ 13 日 (月)

(国立新美術館)

『第 13 回 現展 山陽支部展』

2022 年 11 月 29 日 (火) ~ 12 月 6 日 (火)

(東広島芸術文化ホール くらら)

■ 川崎 一朗 昭和 32 年 (1957) 校本洋

現展 絵画の部 (平面) 会員

『第 78 回 現展』 (現代美術家協会)

2022 年 6 月 1 日 (水) ~ 13 日 (月)

(国立新美術館)

『第 13 回 現展 山陽支部展』

2022 年 11 月 29 日 (火) ~ 12 月 6 日 (火)

(東広島芸術文化ホール くらら)

■ 塩飽 一昭 昭和 36 年 (1961) 校本洋

『塩飽一昭作品展』

2022 年 9 月 5 日 (月) ~ 16 日 (金)

(備後芸術の館 来夢来人)

『福山美術協会会員展』

2022 年 11 月 29 日 (火) ~ 12 月 4 日 (日)

(ふくやま美術館)

『第 6 回 未来展』

2023 年 2 月 17 日 (金) ~ 3 月 3 日 (金)

(福山市沼隈文化館 枝廣邸)

■ 西岡 康雄 昭和 50 年 (1975) 学美油

『第 16 回 光市作家展』

2022 年 6 月 11 日 (月) ~ 26 日 (火)

(光文化センター)

『第 75 回 山口県美術展覧会』

2022 年 11 月 24 日 (木) ~ 12 月 11 日 (日)

(山口県立美術館)

■ 前垣 佳代 昭和 46 年 (1971) 学産芸

『第 60 回 記念 日本現代工芸美術展』

2022 年 4 月 19 日 (火) ~ 24 日 (日)

(東京都美術館)

■ 山本 美次 昭和 45 年 (1970) 学油

『山本美次絵画展』

(2022 年 4 月 そごう広島店)

『ルール美術館での模写研修』講演

2023 年 2 月 25 日 (土)

(広島日協協会 広テレプラザ)

『山本美次小品展』

MUNI ギャラリー

広島市中区本通 9-12 2F 082-545-6162

2023 年 5 月 24 日 (水) - 6 月 5 日 (月)

火曜日休館



武蔵野美術大学校友会広島支部年会費について

年会費は 2,000 円です。総会や MUSABI 展などの参加費は参加者だけの徴収ですが、年会費は全員が対象です。同封の振込用紙で年会費の振込も対応していますのでご利用ください。円滑な会の運営の為に、ご協力をお願いします。

※広島支部では活動活性化のため、長期未払い支部会費の免除処置なども講じております。事務局までお問い合わせください。

ゆうちょ銀行 口座記号番号: 01330 - 6 - 100173

口座名称: 武蔵野美術大学校友会広島支部

校友会報の原稿をお寄せください

校友会報の原稿を募集しています。テーマは自由です。校友会報は、相互の親睦を図ることを目的としています。この趣旨をご理解のうえ、楽しい原稿をお待ちしています。(紙面の都合で添削・短縮させていただく場合があります)

原稿には、「お名前、卒業年度、学部・学科等を記入し、写真や作品などの図版を 2 ~ 3 枚添付してください。原稿との関連写真には、簡単な説明を添えてください。原則として原稿・写真は返却しませんが、返送を希望される場合はその旨お伝えください。

編集後記 岡崎 隆一 平成 10 年 (1998) 短通 デグラ

取材のため日本画家、横田良作さんのアトリエを訪問してきました。横田さんには支部総会のひとくち講演でご登壇いただく予定でしたが、あいにくのコロナ禍となり、それではと言う事で今回の訪問となりました。誌面では書き切れませんでしたが、悲惨な被爆体験や結婚後の苦労話など、本当にたくさんのお話を聞かせていただきました。帰り際には、奥様が精魂込めてお手入れされている庭の美しい木々・花々をみせていただき、楽しく心地よい時間を過ごす事ができました。これからも、会報を通じて校友の貴重な体験をみなさんと共有できたらと思います。

武蔵野美術大学校友会広島支部会報

MUSABI No.39
2023.06

〒720-0052 広島県福山市東町 3-3-16

編集・制作 岡崎隆一 TEL 090-4808-9905 toi@mac.com